

大阪府 キャリア教育プログラム

社会とつながり自立した子どもの育成をめざして

子どもたちが未来を切り拓く力を身につけ、職業的・社会的に自立することを支援する教育が求められています。

それはまったく新しいものではなく、今まで培ってきた教育活動の中に大切な「思い」としてちりばめられています。

その「思い」をキャリア教育の視点でより効果的な取組となるように紡ぎなおし、子どもたちにとってよりよい学びの環境を生み出しましょう。

大阪府教育委員会

平成23年3月

1 大阪の子どもたちの現状認識と方向性

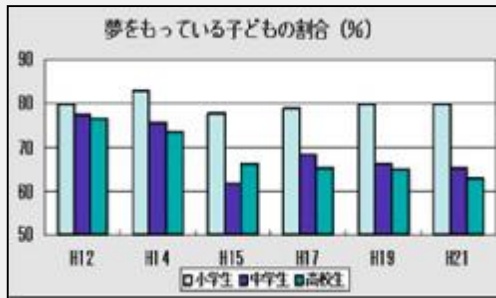
大阪の子どもたちの現状から必要なことは？

夢を持つためにも、難しいことに挑戦するためにも、まずは、自分は何が好きなのか、自分は何が得意なのかを整理し、自尊感情をはぐくむことが大切になります。

何をした時に楽しかったのか、ほめられたのか、それを振り返り、積み上げていくことが自尊感情の育成に役立ちます。

また、自尊感情の育成とともに、難しいと感じることが、できたという達成感を持てるように支援することで、次に挑戦する意欲につながります。

全国学力・学習状況調査（中学3年）より



高等学校の中退率

年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21
大阪府 (%)	2.8	2.8	2.6	2.5	1.6
全国 (%)	1.6	1.5	1.6	1.4	1.2

中央教育審議会答申（平成23年1月）

全国的にも社会的・職業的自立にたどり着けない子どもたちの増加を受けて、平成23年1月31日に中央教育審議会答申の中で、下記のような課題意識と方向性が提示されました。学校だけではなく、各界が各々の役割を出し合って、一体となった学びの環境づくりをめざすことが明記されました。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」概要
(中央教育審議会 平成23年1月31日答申)

キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性

1. 若者の現状・・・大きな困難に直面

産業構造や就業構造の変化、職業に関する教育に対する社会の認識、子ども・若者の変化等、社会全体を通じた構造的問題が存在。

- ◆「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない。
 - 完全失業率 約9%
 - 非正規雇用率 約32%
 - 無業者 約63万人
 - 早期離職 高卒4割、大卒3割、短大等卒4割
- ◆「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題が見られる。
 - コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下
 - 職業意識・職業観の未熟さ
 - 進路意識・目的意識が希薄な進学者の増加

若者個人の問題ではなく、社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要。

その中で、**学校教育は、重要な役割を果たすものであり、キャリア教育・職業教育を充実していかなければならない。**

2. キャリア教育・職業教育の基本的方向性

キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア(注1)発達を促す教育

- 幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に実施
- 様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力(注2)を中心に育成

職業教育

一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育

- 実践的な職業教育を充実
- 職業教育の意義を再評価することが必要

生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援

生涯にわたる社会人・職業人としてのキャリア形成(社会・職業へ移行した後の学習者や、中途退学者・無業者等)を支援する機能を充実することが必要

(注1) キャリア: 人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見つけていく連なりや積み重ね
(注2) 基礎的・汎用的能力: ① 人間関係形成・社会形成能力 ② 自己理解・自己管理能力 ③ 課題対応能力 ④ キャリアプランニング能力

家庭、地域・社会、企業、経済団体・職能団体、NPO等と連携
各界が各々役割を發揮し、一体となった取組が重要

2 全体指導計画の作成に向けた3つのStep

「大阪府キャリア教育プログラム」では、大阪の子どもたちが社会的・職業的に自立し、次の社会の参画者として活躍できるように育成することをめざしています。

このプログラムを参考にしていただきながら、府内全中学校区ごとの実情を踏まえ、小・中学校の一貫した体系的な全体指導計画を作成し、日々の教育活動に生かしていくことが重要です。

Step 2

子どもにつけたい力

(つながる わかる きめる えがく チャレンジ)

Step 3

全体指導計画

- ①発達段階ごとの達成目標
- ②発達段階ごとの取組を整理
- ③取組の中でつけたい力が育成できているかを実践で確認

Step 1

めざす子ども像

すべての教育活動の中にキャリア教育を導入するための順番を示します。ここで注意したいことは、担当者の教職員だけで作成するのではなく、中学校区すべての教職員が関わって、一歩ずつ進めることが大切です。教職員の意識がそろっていないと子どもたちに無理な段差を感じさせてしまうことになります。

Step 1

めざす子ども像

小・中連携

小・小連携

校区の大人で考える 学びの環境

めざす子ども像

学校を中心に校区の大人で子どもたちどのように成長してほしいかという「めざす子ども像」をつくっていきましょう。

子どもの現状

中学校区の教職員が個々に持っている子どもの良さや課題を共有「子どもの現状認識」を一致させることから始めましょう。

学校と地域・社会の連携

Step 2

子どもにつけたい力

子どもにつけたい力を具体化しましょう。

具体化することで、教職員の共通認識が深まり、子どもたちのために必要なことが明確になってきます。取組の中だけではなく、授業の中で、廊下で、休憩の時間の会話一つ一つがめざす子ども像に近づけることにつながり、それが教育活動のすべてで紡がれていくことが将来の「生きる力」として積み上がっていきます。

つながる

自己肯定感
人間関係形成
社会形成
コミュニケーション力
自他理解

えがく

将来設計
キャリアプランニング
計画実行
役割把握・認識

きめる

意志決定
選択
課題解決
自己管理
自律

チャレンジ

意欲・態度
難しいことに挑み
達成感を得る

わかる

情報活用
情報収集・探索
職業理解
情報リテラシー
情報編集

地域の財産
公共施設・自治会・
商店街・地域支援
本部事業・など

社会の財産
企業・商工会議
所・NPO・ボラン
ティア団体

学びの環境
めざす子ども像の共有
子どもの現状の共有

学校の財産

教職員・校種間連携・PTA・今まで培っ
てきた取組など

つけたい力を教育活動の場で育成するには、「やってみたい」という子どもたちの動機付けを丁寧にしかけることが大切になります。動機付けになるものは、学校・地域・社会の中たくさん財産として存在しています。



財産の活用で困ることがあれば、様々な人たちの協力を得ることが必要になります。このときに、めざす子ども像や取組の中でどんな力をつけたいのかを伝えることで、協力体制はより効果的なものになります。

3 キャリア教育の全体指導計画例

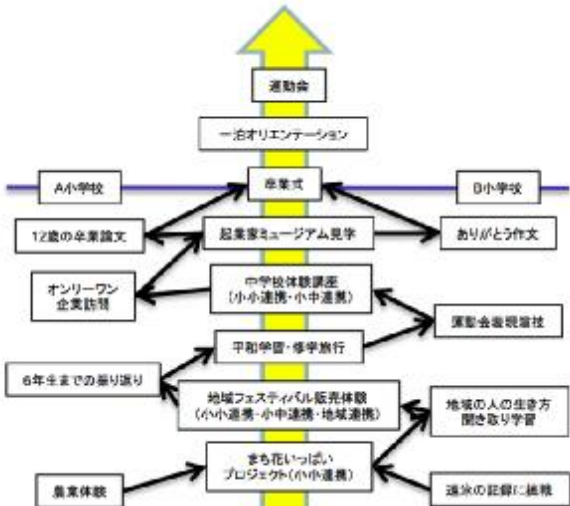
ここでは、全体指導計画の例を紹介します。まとめ方はいろいろありますが、様々な連携を活用しながら「めざす子ども像」や「つけたい力」の育成のための全体指導計画を作成しましょう。

校区のめざす子ども像	自他を理解し、自分の思いや考えを伝えることができる子ども				伝えることができる子ども				
	しっかりと友だちと助け合う		友だちの考えを理解しようとする		自分で気持ち行動し、自分の思いや考えを素直に表現する。	他者を思いやり、協力する態度を養う。	様々な職業を知り、働くことの尊さを学ぶ。	自己を見つめ、より良い進路選択をする。	
発達段階の目標									
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
活動名	きつまいもの栽培から調理	身近な職業見学	学校での係活動	「大和川のつけかえ」構成劇	林院学校	委員会活動の引き継ぎ	福祉体験学習	職業体験学習	進路選択に向けて
つけたい力	つながる わかる		つながる チャレンジ		つながる きめる		つながる わかる	わかる えがく	きめる えがく チャレンジ
目的	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然にかかわり自然に親しむ心を育む。 グループで協力する気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の内容や大切さを知る。 公共でのマナーを守る大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力する大切さや人の役に立てる喜びに気付く。 係りの人に感謝し、仲間としての関係を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大工事を成し遂げたことを知り、先人の苦労や努力に共感する。 班で取り組む中で、コミュニケーションを図り、協力することの大切さを体得する。 集団としての達成感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間意識の向上を図る。 児童に企画や運営をさせ、達成感を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係を深め、協力することの大切さに気付く。 先輩へと引き継いでいくことの重要性を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験や講話、映画鑑賞により、互いを認め合う心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚を高める。 将来の夢や職業を思い強く、仕事への関心・意欲を見やる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の個性や能力、適性への理解を深め、進路を選択し、決定する力を養う。 情報を収集し活用する力を育成する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> きつまいもの苗を植え、栽培する。 グループで成長を観察する。 収穫し、調理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電車や駅についての学習をする。 駅で働いている人から、駅の様子や仕事内容を聞き取る。 駅と近所近辺の様子を見学する。 	<ul style="list-style-type: none"> 終わりの会で、係から、活動した内容を報告する。 みんなへのお礼や注意等を発表する。 係活動を通して良かったことやうれしかったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大和川のつけかえ」について学習する。 発表の役割分担をする。 班で準備や練習を行う。 保護者に向けて、劇を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年単位で様々な係に分かれて計画、準備をする。 事前にグループで体験活動を検討し、練習をする。 当日、オリエンタリングやフィールドアスレチックをグループで協力して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会ごとに、仕事内容等を模造紙にまとめる。 委員会の活動内容を5年生に詳しく説明する。 実際に、5年生と一緒に委員会活動を行い、伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ボランティアの方々との協力を得て、車椅子体験、アイマスク体験を実施する。 講話を聞き、福祉に関する講演を聞く。 福祉に関する映画を観賞する。 各活動のローテーションを組み、学年単位で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職業を学び、マナーやコミュニケーションの基礎を学習する。 職業に就いている講師（8名）を招き、職業講話を実施する。 職業を事前訪問し、打ち合わせを行う。 職場体験学習の実施 感想文、お礼状の作成 文化祭での発表準備（職場ごとに発表方法を考え、準備する。） 文化祭で、「プレゼンテーション」「壁新聞・作品展」などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校の先生などを招いての、説明会を実施する。 高等学校や専門学校などからの情報を積極的に活用し、自分の進路について考える。 職業についての詳細な本「なるには BOOKS」を各学級ローテーションで職業文庫として、読読書の時間等に活用する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力し、最終的に観察する。 しっかりと役割分担して調理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学を通じて、公共でのマナーを守ろうとする態度を育てる。 駅で働く人の仕事を知り、利用者が協力できることを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 係としての責任を持ち、学級の一員として役割を果たしていることに喜びを感じる。 係活動に積極的に取り組み、互いの活動を大切に認め合うようになる。 助けようとする態度が生まれ、人間関係が良好になる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをとりながら、上手く協力できることが、良い発表に繋がっていることを理解させる。 自分の役割に責任を持ち、努力することの大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級の壁を超えて、横の関係ができてくる。 自分たちで実践していくことの楽しさを感じる。 今後の行事で、高学年としての自覚が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙に活動内容を分かりやすくまとめ、発表の仕方を工夫する。 5年生には、責任を持って活動する意欲を育てる。 6年生には、仕事を頑張って来たことに対する誇りや自慢の気持ちを育てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動ごとに班で協力することをしっかりと理解させ、コミュニケーション能力を高める。 入学後の仲間作りと自らの責任を果たす気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験学習によって、社会生活の一環に勤め、働くことの大切さや大変さを理解させる。 文化祭で職場体験学習の活動を報告させ、市主催の文化祭にも参加し、地域の方々から褒められるなど、達成感を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報を自分自身で集め、自分の将来を見据え進路選択ができるようになる。 自分の考えや思いをしっかりと伝え、進路選択の意思表示ができるようになる。

全体指導計画を作成するために、2つの小学校のある中学校区で取組を整理した例



全体指導計画に基づいた指導計画例



学年	日付	教科	単元名	ねらい	つながる	わかる	きめる	えがく	チャレンジ
小学4年	11月18日 5期	国語	「〇〇の本」を読んで自分を木にたとえてみよう!	文中に登場する本に思いを馳せ、自分を木にたとえてみる。言葉で表現、紙で話し合う。	○	○		○	
	11月20日 4期	国語	自分の本を書いてみよう!	国語の時間に言葉で表現した本を絵にする。文章表現が苦手な子をいきいきさせる。		○		○	
	12月4日 5-6期	総合的な学習	自分の本に葉をつけてみよう!	葉の絵にクラスの仲間から良いところを書いてもらい、自分の本に貼る。	○				○
	12月11日 3-4期	総合的な学習	1/2成人式で読む文を書いてみよう!	クラスの仲間から書いてもらったたくさんの葉を読みながら、自分の成長を振り返り、これからの自分をえがく。		○		○	○

4 キャリア教育よくあるQ&A

文部科学省
「小学校キャリア教育の手引き」(平成22年1月)
国立教育政策研究所生徒指導研究センター
「小学校におけるキャリア教育推進のために」(平成21年3月)
「中学校におけるキャリア教育推進のために」(平成21年11月)

Q1 よく「キャリア教育の視点で」と言いますが、この「視点」とはどのようなことですか？

A1 キャリア教育の「視点」とは、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進する見方を持つことです。

Q2 職場体験などの体験活動をするのがキャリア教育ですか？

A2 いいえ、そうではありません。体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置付けられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員としての責任を担い、社会的な自己実現を図ろうとする意欲や態度を継続的に育てていくものです。体験活動には、達成感や満足感を得ることによる自信や自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待できます。その効果を発揮させるためには、体験活動を一過性のものに終わらせるのではなく、ねらいを明確にして、他の教育活動と関連づけたり、事前事後の指導を工夫したりすることが重要です。

Q3 キャリア教育はどの時間に実践すればよいのですか？

A3 子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見いだせず、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった問題が指摘される今日、キャリア教育を通して学ぶ意義を認識させる必要性はますます高まっています。教科の時間においても、それぞれの単元などの特質を生かしたキャリア教育を実践することにより、確かな学力を向上させることができます。なぜ勉強しなくてはいけないのか、今の学習が将来どのように役立つのかということなどについての発見や自覚が、日頃の学習に対する姿勢の改善につながり、そのことがさらに新たな発見やより深い自覚に結びついていくのです。

Q4 「キャリア教育は新しい教育活動ではない」というのはどういう意味ですか？

A4 キャリア教育は、教育活動の領域・単元の1つではなく、教育活動全体に働きかけていくという見方が大切です。学校では、既存の教育活動のなかにキャリア教育と関連する内容が数多くあります。それらをキャリア教育の視点でとらえ直すことで、それぞれの活動の関連が明確になります。もちろん、学校や地域の特性、子どもたちの実情に応じて、新しい教育内容や活動を加え、キャリア教育をより豊かにする工夫もまた大切であることは言うまでもありません。まずは既存の教育活動をとらえ直し、その力を十分に生かすことが必要でしょう。

Q5 キャリア教育を進めるのに相談できる専門家はいますか？

A5 動機付けをどのように導きだし、子どもたちのまわりにある財産とつないでいくかについて困ることがあれば、「キャリア教育コーディネーター」の活用を考えてみることも必要です。子どもたちとあらゆる財産をつなげてくれる専門家で、教職員のキャリア教育の支援として、取組や授業の事前・事後のプランも一緒に考えてくれます。今後は、「キャリア教育コーディネーター」が校区の大人の中にいることで、取組や授業の活性化とともに、地域の活性化を同時に進めることができ、子どもの学びの環境づくりの中心になることが期待されています。詳しくは、経済産業省のホームページをご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/index.html>

